

南吉田小学校では、一校一國運動でのセネガルについての学習を「人権教育」の中の1つの大きな柱として捉え、取り組みました。寄せられた感想文は、児童が一校一國運動をはじめ、様々な場面を通じて「人権」について学んだ感想です。

### 「幸せ」

6年生 女子

私は、3回にわたって人権について学びました。その3回で共通することがありました。それは「幸せになりたい」「生きたい」ということです。私は「幸せ」と「生きる」というのは当然とばかり思っていました。

でも、そんな考えはまちがっていました。一日で一万人以上（国の人口の8割）の人が亡くなるというような悲劇は日本ではあり得ないことです。いくら生きたいと思っても生きられない、幸せになれないなんて、私はやりきれない気持ちになりました。やせて栄養不足の子どもを見て「ドキッ。」としてしまいましたかわいそうなのと信じられないという気持ちが入り交じっているんだと思います。そのような環境の中でも、WFPの人たちは素晴らしい活動をボランティアでしています。なんでそんなに勇気のあることができるのだろうと不思議に思いました。もしかしたら向こうで死んでしまうかもしれません。「幸せ」と「生きたい」ということを願っている人たちのために勇気を出し、食べ物を届けたり、医療活動をしているのはすごいと感じました。

ところで、多くの人が命をおとす理由はなんだろうと疑問に思いました。その答えは戦争でした。私はあまり驚きませんでした。理由は、戦争が人や田畑に影響を及ぼすことを知っているからです。

だからこそ、戦争をやめて一日も早くみんなが健康になれるといいなと思います。今、私にできることはきっと無駄をなくすことだと思います。もったいないことをなくしたいと改めて実感しました。

### 「人が生きること」

6年生 男子

「人権移動教室」で人権について教えてもらいました。前から本を読んで知ってはいたけれど、改めて勉強して、よくわかりました。今日初めて、国境なき医師団は自主的なボランティアで、何も報酬ももらわずに、だれも行かない危険な場所に行って病気や困っている人を助けるなんて素晴らしいと思いました。ぼくだったらそんなことはできません。

「人の幸せを大切にする」「人が生きることを大切にすること」を、ぼくはこれまでできていたのか、自分だけのことを考えていたのではないかと思いました。ぼくは誰かのために何かしてあげられたことがあまりなくて自分のことばかり考えていました。

でも、最近「ワレンバーグ」の伝記を読んでわかりました。ワレンバーグはハンガリーでヒトラーからユダヤ人を救った人です。その人の伝記を読んだ時に、たった一人の人間でも何万人の命が救える、人間はなんだってできる、考えるだけでも素晴らしいと思いました。

僕もワレンバーグみたいになりたいです。そのためには身近なことから始めたいと思います。「人の幸せを大切にする」—いつかそういう人間になって人の役に立ちたいです。